
巨大津波が襲う

(由井りょう子ほか・著、石巻赤十字病院の100日間、東京、小学館、2011、p.28-41)

2012年7月20日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

- 1.巨大津波が襲う：地震発生時、院外にいた看護師のレポート
- 2.津波にのまれた看護専門学校：地震発生時、看護専門学校の教師として学校にいた看護師のレポート
- 3.不気味な静けさの病院内：病院にいた医師の立場からのレポート

→院外の看護師、院内の医師の双方の立場からのレポートがまとめられている。看護師のレポートでは、地震発生直後、津波到着までの住民たちの様子や、津波が到着してからの避難の様子、また、避難所での簡易的なケアの様子などがまとめられている。医師のレポートでは、地震発生後、患者受け入れ態勢を整え、徐々に多くの患者が搬送されてくる様子が描かれている。

1) 看護師たちによる院外のレポート

- ・避難所（小学校）での医療器具が不足
 - 濡れた衣服の代わりにカーテンや国旗を利用、
おむつかわりに避難先の小学校に残された体操服を代用などの工夫
- ・様々なニーズ
 - 溺れて低体温となっている患者をマッサージして温める
 - 骨折の固定、外傷の処置といった医療行為
 - パーキンソン病患者のトイレ介助
 - 寝たきりの高齢者のおむつ交換や体位変換
 - 認知症患者の徘徊の付き添いなど

設備不足、また医師が不在であったことから、専門的な医療行為は行えなかったが、その場その場でのニーズに合ったケアが出来ていたように感じる。しかし、停電や医療資源の不足などにより、十分な医療が行えていたとはいえない。

2) 院内のレポート

- ・地震発生直後：トリアージ班を作成、傷病者の到着を待つ状態を整える。
来院者は意外と少ない
- ・数時間後：大量の被災者が来院
→医療活動スペースの確保困難

病院では、津波の実態について当時十分な状況把握ができておらず、対応の遅れが生じた。患者受入れ準備に関しても、阪神淡路大震災での地震による外傷患者を想定していたため、低体温、肺炎、水死が多くを占める津波被害の実情と合致していなかった(a)。

地震発生直後の来院者が意外と少ないと感じたことも、

- ①津波で病院に来る間もなく一瞬で亡くなった人が多かったこと
 - ②17台ある救急車のうち12台が津波に流され動けない状態であったこと
 - ③がれきが多く病院にたどり着けなかったことなど
- が原因であると考えられ、実態の把握が不十分であったことがわかる。

a. 自然災害の種類別被害の特徴

	地震	津波
死者	多い	多い
重度外傷	多い(集団発生)	少ない
伝染病の危険性	潜在的な危険性(密集や衛生状態の悪化で危険性が増す) まれ	よくある
食糧不足	(食糧がないのではなく、それ以外の要因が大きい) まれ	よくある